

2009年5月20日

< 日本板硝子 2009年3月期 決算説明会 主な質疑 >

1. 優先株について

1) 希薄化リスクはどの程度ありますか？

－ A: そのリスクは極めて低いと想定しています。  
今後営業キャッシュフローを高めていくことで充分償還可能と考えています。

2. 事業再構築について

1) ヨーロッパでの事業再構築の進捗具合を教えてください。

－ A: フロート窯では、フィンランドの1窯をクローズ(閉鎖)、イタリアベニスの1窯をHotHold(生産停止)、英国では定期修繕完了の1窯の再稼働延期中です。これらは当社のヨーロッパにおける生産能力の20%に相当します。  
なおヨーロッパ市場ではガラス業界全体(当社含む)で8窯の生産ストップが発表されています。

3. 業績予想について

1) 今年度上期の予想は？

－ A: 印象としては下期のほうが改善されると思われませんが具体的な予想はまだございません。  
なお、ヨーロッパでの建築用ガラスを約30%値上げすることを表明いたします。

4. ソーラーについて

1) ソーラーの売上及び利益の見通しは？

－ A: FY09は250億円、FY10は50%増の380億円を見込んでいます。  
昨年後半からの伸び率鈍化の背景には、昨年来からの金融不安によるプロジェクト資金の不足があります。  
薄膜向けガラスの需要は順調です。利益率も維持可能です。今後5-10年先ではTCOタイプの更なるコストダウンが普及を加速させると見込んでいます。

5. BSについて

1) 繰延税金資産の影響はどうであったか？

－ A: FY2009は日本、フランス、オーストリアにおける繰延税金資産(約60億円)取り崩しました。繰延税金資産は、各地域ごとにその将来見通しにより算定いたします。FY2010見通しでは繰延税金資産・負債の影響はゼロと見込んでいます。(見込まれる場合は、FY2009に認識することになります。)

2) 暖簾の減損の見通しは？

－ A: 各地域毎に将来キャッシュ見通しをもとに減損テストを毎期末実施しています。  
今年度見通しと将来の計画を評価した上で、減損の見込みはございません。

6. 会計基準について

1) 会計基準のIFRSへの変更の見通しは？

—A: 検討して参ります。

以上